

**総合計画第2期実施計画に  
基づく令和3年度の実施  
状況に対する点検・評価書**

**川崎市病院局**



# 目 次

1 点検・評価の考え方	・ ・ ・ ・ ・	P 1
2 取組進捗状況管理シート	・ ・ ・ ・ ・	P 3
(1) 川崎病院	・ ・ ・ ・ ・	P 4～21
(2) 井田病院	・ ・ ・ ・ ・	P 22～39
(3) 多摩病院	・ ・ ・ ・ ・	P 40～47
【付属資料】	・ ・ ・ ・ ・	P 49
・ 川崎市立病院運営委員会設置要綱	・ ・ ・ ・ ・	P 50～52
・ 委員一覧	・ ・ ・ ・ ・	P 53

# 川崎市立病院概要

## 1 川崎病院

高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院としての機能も担っています。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入や、災害拠点病院、地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。新型コロナウイルス感染症への対応では、神奈川モデルにおける高度医療機関及び重点医療機関として、重症患者及び中等症患者の受入を積極的に行っています。



## 2 井田病院

南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急・災害医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応も行っています。また、臨床研修指定病院等として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。新型コロナウイルス感染症への対応では、神奈川モデルにおける重点医療機関として、中等症患者の受入を積極的に行っています。



## 3 多摩病院

北部地域の中核病院として、小児救急を含めた救急医療を中心に、高度・特殊・急性期医療などを提供するとともに、災害拠点病院としての役割を担っています。また、地域医療支援病院として、地域のかかりつけ医等を支援・連携しながら地域全体の医療提供体制の向上を図っています。新型コロナウイルス感染症への対応では、神奈川モデルにおける重点医療機関として、中等症患者の受入を積極的に行っています。



# 1 点検・評価の考え方

令和3年度（2021年度）については、川崎市病院事業の計画としては「市立病院中期経営計画2016-2020」と「市立病院経営計画2022-2023」の狭間の年であり、経営計画が設定されていない年度となります。

そこで、令和3年度の点検・評価としては、「川崎市総合計画第2期実施計画」に設定されている病院事業の成果指標の目標値について、令和3年度の達成状況と、取組内容などの状況を学識経験者や財務の専門家、医療関係者（医療関係団体代表）で構成する川崎市立病院運営委員会（以下「運営委員会」という。）に報告し、第三者の立場から客観的な御意見をいただき、「取組課題」の単位で、進捗状況についての総括を作成しました。

令和3年度の取組状況に対する点検シート

川崎病院

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(※審)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化									
①救命救急医療の充実	①救命救急センターの安定的な運営及び体制強化に向けた救急医及び救急救命士の安定的な確保 ②川崎市メディカルコントロール協議会等、市内関係会議への参加及び協力 ③救命救急センター厚労省評価基準S級の維持 ④コロナリー・應急ホットラインの充実 ⑤救急ワークステーション稼働への準備 ⑥救急搬送件数目標6,500件	中期計画 総合計画	三次救急搬送患者 応需率	86.0%	98.1%	87.7%	-9.5%	95.5%	【成果指標及び取組内容の状況と分析】 ①救急科専門医10名（うち1名が救急科指導医）、救急科専攻医3名、救急科研修医若手、救急専従薬剤師1名で、ER、救急診療（EICU4床とEHCU16床）をカバーし、RRS（Rapid Response System）をリニューアルしました。 ②継続されたすべての会議に出席しました。 ③継続してS級を維持しました。 ④コロナリー・ホットラインは応需率93.1%、横急ホットラインは応需率92.8%と高い数値を維持しました。 ⑤消防局と協議を行いながら、設計を進めました。 ⑥3次救急搬送患者応需率及び救急患者受入数は、新型コロナウイルス感染症患者の受入体制確保のため、患者の受け入れに支障を来したところにより減少しました。 【今後の方向性】 ①救命救急センター（ER【1～3次救急】、EICU、EHCU、RRS）およびプレホスピタル対応、災害対応など、運営のためには救急医数が14名必要で、救急科専門医10名では少なく、救急科専攻医と共に対3-4名の専任が必要です。これら複数職種をカバーしているため、救急救命士と併せて積極的な採用活動を進めます。 ②今後も消防局と連携しながら、プレホスピタル活動の充実と効果的な救急救命士の育成につながるよう、救急ワークステーション稼働への準備を進めます。 ③新規患者獲得のため、部内の消防署などとも意見交換を行っていく予定です。 ④③④引き続き取組を推進します。
		中期計画	救急自動車搬送 受入件数	5,834件	-	-	32件	5,802件	
		総合計画	救急患者受入数	17,637	9,800人	59.2%	2,327人	15,310人	

「総合計画」：川崎市総合計画内で設定されている成果指標です。  
「中期計画」：市立病院中期経営計画で設定されていた成果指標を、参考までに掲載しています。

市立病院中期経営計画で設定されていた成果指標については、令和3年度の目標値がありませんので、空欄となっております。

本委員会ですぐの御意見をいただきたく思います。

<外部評価> 委員会委員による意見等

## 【PDCAサイクルによる経営管理】





## **2 取組進捗状況管理シート**

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化</b>				
①救命救急医療の充実	①救命救急センターの安定的な運営及び体制強化に向けた救急医及び救急救命士の安定的な確保 ②川崎市メディカルコントロール協議会等、市内関係会議への参加及び協力 ③救命救急センター厚労省評価基準S級の維持 ④コロナリー・腹急ホットラインの充実 ⑤救急ワークステーション稼働への準備 ⑥救急搬送件数目標6,500件	中期計画 総合計画	三次救急搬送患者 応需率	86.0%
		中期計画	救急自動車搬送 受入件数	5,834件
		総合計画	救急患者受入数	17,637人
②災害医療機能の維持	①派遣要請対応 ②各種訓練実施・参加 ③DMAT隊員の養成 ④患者に合わせた備蓄食料の拡充 ⑤災害時対応機能の拡充 ⑥災害医療企画室の活動の活性化	中期計画	災害派遣医療 チーム等の派遣 要請応需率	100.0%
		中期計画	食料・飲料水・ 医薬品の院内 備蓄確保量	3日間分
		総合計画	災害派遣医療チームの 隊員数（市DMAT）	42人



第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
98.1%	87.7%	-9.5%	95.5%	<p>【成果指標及び取組内容の状況と分析】</p> <p>①救急科専門医10名（うち1名が救急科指導医）、救急科専攻医3名、救急科研修医若干名、救急専従薬剤師1名で、ER、救急病棟（EICU4床とEHCU16床）をカバーし、RRS（Rapid Respons System）をリニューアルしました。</p> <p>②開催されたすべての会議に出席しました。</p> <p>③継続してS級を維持しました。</p> <p>④コロナリーホットラインは応需率93.1%、腹急ホットラインは応需率92.8%と高い数値を維持しました。</p> <p>⑤消防局と協議を行いながら、設計を進めました。</p> <p>⑥新型コロナウイルス感染症の第4波及び5波の際に、長期に渡り、救急病棟を新型コロナウイルス患者の専用病棟に転換して運用していたことから、一時的に3次救急搬送患者応需率は50%台まで低下しました。また、それらに伴い患者の受け入れに支障を来したことから、救急患者受入数は減少し、目標を達成できませんでした。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>①救命救急センター（ER【1～3次救急】、EICU、EHCU、RRS）及びプレホスピタル対応、災害対応などの運営のために、救急医及び救急救命士の積極的な採用活動を進めます。</p> <p>⑤今後も消防局と連携しながら、プレホスピタル活動の充実と効果的な救急救命士の育成につながるよう、救急ワークステーション稼働への準備を進めます。</p> <p>⑥新規患者獲得のため、都内の消防署などとも意見交換を行っていく予定です。</p> <p>②③④引き続き取組を推進します。</p>
-	-	32件	5,802件	
29,800人	59.2%	2,327人	15,310人	<p>【成果指標及び取組内容の状況と分析】</p> <p>①令和3年10月7日発生 of 千葉県北西部を震源とする地震と令和4年3月16日発生 of 福島県沖を震源とする地震で、それぞれ待機命令に基づきDMA T隊の出動準備を整えました。</p> <p>②国交省の首都直下地震防災訓練や、日本DMA Tの自衛隊艦艇を活用した災害医療活動訓練などに参加するとともに、複数の院内訓練を実施しました。</p> <p>③川崎DMA Tの隊員養成研修に職員を派遣しました。</p> <p>④食糧・飲料水は消費期限に応じて入れ換えを行うとともに、患者さんの状態に応じた摂取しやすいものへ順次変更しました。</p> <p>⑤停電時に備えて医療機器等のバックアップ用にバッテリーを購入しました。また、被害状況把握の迅速化を図るため、災害時院内情報管理システムを導入しました。</p> <p>⑥災害医療企画室会議を毎月定例的に開催しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>①今後も派遣要請に的確に応じていけるよう、隊員の養成と訓練の充実を図ります。</p> <p>②今後も国・県・市などの各種訓練に積極的に参加するとともに、院内の訓練を充実していきます。</p> <p>③引き続きDMA T隊員の充実を図るとともに、各種訓練の充実により技能の維持・向上を図ります。</p> <p>④引き続き取組を推進します。</p> <p>⑤災害時院内情報管理システムが有効に機能するよう、運用ルールの構築やマニュアルの整備、システムを利用した訓練などを行います。</p> <p>⑥平時におけるDMA T隊員の活用も含め、災害医療企画室の体制の充実を図ります。</p>
-	-	変わらず	100.0%	
-	-	-	3日間分	
30人以上	140.0%	変わらず	42人	

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充</b>				
○がん診療機能の強化	①神奈川県がん診療連携指定病院の継続 ②がん診療の充実・強化及び関係医療機関との連携・推進 ③PET-CTの運用促進 ④地域がん診療連携拠点病院を見据えた情報収集や取組要件の確認 ⑤無菌室の効率的な運用 ⑥カンサーボードの定期的な開催	中期計画 総合計画	がん登録数 (報告値)	1,580件
		中期計画	神奈川県がん診療連携指定病院の指定	地域がん連携拠点病院の指定
		中期計画	がん手術件数	1,131件
		総合計画	PET-CTの運用件数	1,029件
<b>取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実</b>				
①小児・周産期医療の確保	①近隣の周産期医療機関との協力体制の維持 ②周産期・小児医療サービスの向上 ③周産期メンタルヘルスケアの充実	中期計画	周産期救急搬送患者受入件数	78件
		中期計画	NICU及びGCUにおける新規入院患者数	232人
		中期計画	分娩件数	794件
②内視鏡検査・治療の充実	①地域医療機関からの検査依頼受入れの拡充	中期計画	内視鏡検査件数	6,870件
		中期計画	内視鏡治療件数	1,093件

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
1,350件以上	117.0%	-130件	1,710件	【取組内容の状況と分析】 ①④令和4年4月1日に地域がん診療連携拠点病院に指定されました。 ②がん診療の充実・強化については、周囲の臓器に影響を及ぼさず、高い精度で病巣のみを治療することができる、高精度放射線治療システムを導入しました。また、化学療法室を拡充し、血液内科を設置しました。更に、関係医療機関との連携・推進については、地域連携クリティカルパスの連携クリニックを増やすなど運用を拡大し、地域のクリニックと連携したがん診療を推進し、がん登録数においては目標値を上回って達成しました。 ③病院訪問や地域の医療機関への広報強化などによる共同利用の推進に努め、昨年度実績を大きく上回りましたが、目標値は達成できませんでした。 ⑤診療科と協働し、無菌室を効率的に運用することで、稼働率100%を維持しました。 ⑥今年度は4回開催しました。
-	-	-	維持	【今後の方向性】 ①④指定要件の維持と、内容の充実に努めていきます。 ②腫瘍内科を設置し、ロボット支援手術の拡充を目指します。 ③継続的に医療機関訪問等を実施し、病院・診療所との連携を進め、広報等を通して地域における共同利用を推進します。 ⑤⑥引き続き取組を推進します。
-	-	40件	1,091件	
1,100件以上	93.5%	197件	832件	
-	-	29件	49件	【取組内容の状況と分析】 ①近隣の周産期医療機関との協力体制を維持しました。 ②昨年度と比べ、NICU及びGCUの新規入院患者数は約2割増加しました。新型コロナウイルス感染症による受診控えの反動が起きていると考えられます。 ③メンタルヘルスケアが必要と判断された妊産褥婦に対して2週間検診等で個別に育児相談を行い、必要に応じて地域と情報共有しています。また、メンタルヘルスケアの取組を継続するために、周産期専門の臨床心理士の確保を図りました。
-	-	40人	192人	【今後の方向性】 ①引き続き、近隣周産期医療施設との連携を維持し、NICUを新規開棟した市内病院との協力体制の強化を図ります。 ②今後分娩件数の大きな増加が見込まれないことから、周産期関連の新規入院患者数を維持していく施策を検討します。 ③ハイリスク妊産婦連携会議の内容を精査し、参加職種を拡大していく予定です。
-	-	57件	737件	
-	-	-74件	6,944件	【取組内容の状況と分析】 ・内視鏡検査件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えの影響により、前年度と比べて減少しました。 ・胃がん検診については、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から受付を制限しており、検診数の減少に伴い、上部消化管内視鏡検査件数が減少しました。
-	-	18件	1,075件	①地域医療機関からの検査依頼について、患者総合サポートセンターが直接受付する体制を整えた結果、来院回数は検査当日の1回のみと簡略化され、円滑な受入体制の構築に繋がりました。 【今後の方向性】 引き続きすべての取組を推進します。

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実</b>				
③チーム医療の推進	①病棟薬剤師の配置病棟の拡充 ②呼吸サポートチーム、認知症ケアチーム、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームによる回診、カンファレンスの実施 ③臨床倫理コンサルテーションチームによる倫理的課題への取組の推進 <栄養サポートチーム> ①栄養サポートチーム・摂食嚥下支援チームによる効率的な栄養管理の実施 ②病院職員を対象としたNST研修会の実施 <緩和ケアチーム> ①緩和ケア提供のための継続的な体制整備	中期計画	栄養サポートチーム回診延べ患者数	1,784人
		中期計画	緩和ケアチームによる症状緩和実施患者数	155人
<b>取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進</b>				
①地域医療連携の推進	①地域医療支援病院の継続 ②地域医療連携の会の開催や病院・診療所等訪問の実施による連携関係の強化、紹介患者の獲得 ③紹介元医療機関への返書等による情報交換の推進 ④PET-CT等検査機器の共同利用促進 ⑤認知症疾患患者に対しての医療サービスの充実 ⑥科別応需率の分析	中期計画	地域医療支援病院の承認	継続
		中期計画 総合計画	紹介率	70.2%
		中期計画 総合計画	逆紹介率	106.1%
		中期計画	検査機器の共同利用件数	936件
		総合計画	紹介患者数	11,420人
②地域包括ケアシステムの推進	①「地域ケア懇談会」の継続実施 ②地域の医療従事者を対象とした症例検討会や勉強会の開催 ③病院・施設の感染管理の出前講座	中期計画	地域ケア懇談会開催数	2回
		中期計画	勉強会・症例検討会等への地域の医療・介護従事者等参加延数	495人

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	123人	1,661人	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NSTチームは加算可能件数が1日15件までですが、専門性のある回診を行っています。摂食嚥下支援チームは、嚥下造影実施患者を対象としているため、介入患者数の増減は入院患者数に影響します。</li> <li>①現在、3つの病棟と救命救急センターに配置しています。</li> <li>②各チームが週1回ラウンドして多職種によるカンファレンスを実施し、ケアの質向上につなげています。</li> <li>③医師・認定看護師及び院内で、その領域の職務を遂行するにあたり十分な教育を受けた職員により支援しています。</li> </ul> <p>&lt;栄養サポートチーム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①NSTチームと摂食嚥下支援チームに分けて回診することで、回診の効率化と多職種連携による栄養管理を行っています。</li> <li>②医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・言語聴覚士が交代で講師を担当し、今年度は5回開催しました。</li> </ul> <p>&lt;緩和ケアチーム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①緩和ケアチームによる週1回の病棟ラウンドに加え、専従看護師による病棟及びベッドサイド訪問を毎日実施しています。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続きすべての取組を推進します。</p>
-	-	39人	116人	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続き指定要件の充足を確認し、内容の充実に努めました。</li> <li>②地域医療連携の会については、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインと会場のハイブリッド方式により7月に開催しました。また、医療機関訪問については7月以降再開しており、連携強化及び紹介患者の獲得を図りました。</li> <li>③月毎の紹介受診後1週間以内の返信率を毎月院内に周知することで、返信率は93%まで上昇しました。</li> <li>④昨年度を上回る利用件数を達成しました。</li> <li>⑤認知症疾患医療センターを整備し、物忘れ外来、物忘れ相談室を設置しました。</li> <li>⑥地域医療連携推進強化委員会等で非応需の理由を確認し、改善方法を検討することで科別応需率向上を図りました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①④～⑥引き続き取組を推進します。</li> <li>②医療機関訪問については、関係強化の観点から対面による訪問を中心として取り組みます。</li> <li>③月毎の紹介受診後1週間以内の返信率100%を目指して、医師への呼び掛けを強化していきます。</li> </ul>
50.0%以上	140.4%	-1.5%	71.7%	
70.0%以上	151.6%	-7.3%	113.4%	
-	-	60件	876件	
12,300人以上	92.8%	1,653人	9,767人	
-	-	変わらず	2回	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域ケア懇談会について、新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで2回開催し、院内外より126人が参加しました。</li> <li>②勉強会・症例検討会は13回開催し、495名の参加がありました。</li> <li>③高齢者施設ヘラウンド及び指導を行い、また高齢者施設協議会に参加し、高齢者施設関係者への集団指導を行いました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、勉強会や講演会等の開催方法はオンラインが主流となっています。当院の通信環境はまだ十分とは言えず、今後の開催に向け整備が必要です。</li> <li>・今後は、オンライン開催でも地域の医療従事者と活発なディスカッションができるような仕組みの検討を行っていきます。</li> <li>・引き続きすべての取組を推進します。</li> </ul>
-	-	36人	459人	



取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(5) その他医療提供体制の強化</b>				
①精神科救急医療の強化	①県精神科救急体制に対応するための県応需病床2床の円滑な運営 ②救急応需に必要な精神保健指定医、精神保健福祉士の確保 ③総合病院精神科の役割として精神疾患を有する身体合併症患者の受入れの実施（病病連携、院内他科連携） ④週2回の救急応需体制の整備	中期計画 総合計画	精神科救急患者受入数 (三次及び二次のみ)	24人
		中期計画	精神科救急応需病床 (2床)における平均在院日数	20.6日
		総合計画	精神保健指定医数	3人
②感染症医療の確保	①川崎市新型インフルエンザ等対策検討委員会への参加による診療体制確保及び周辺医療機関との役割分担の確認 ②検疫所との合同患者受入訓練実施による対応方法強化、個人防護具の着脱訓練、及び感染対策や管理に従事する職員の育成 ③新型コロナウイルス感染症の積極的な介入 ④ワクチン接種の取組 ⑤高齢者施設への感染管理指導	中期計画	保健所からの要請に基づく二類感染症患者入院要請応需率 (結核患者を除く)	100%
③リハビリテーション機能の強化	①新規採用職員の育成と臨時職員の増員 ②病棟との連携強化 ③病棟でのリハビリテーションの拡充 ④リハビリテーション科内組織の再編	中期計画	自宅等に退院した患者の割合 (一般病床)	86.1%
		中期計画	リハビリテーション実施単位数	105,917単位

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
29人	82.8%	-4人	28人	【成果指標及び取組内容の状況と分析】 ①精神科救急患者受入数については、4県市協調体制の精神科救急システムを経由した入院であるため、当院のみで調整できるものではありません。令和3年度は前年に比べ受入数は低下し、在院日数は延長しました。 ②精神保健指定医は3人、精神保健福祉士は会計年度任用職員3人を確保しています。また、常勤の精神保健福祉士は不足しています。 ③令和4年3月2日に川崎市心身急入院病院の指定を受けました。 ④週2回の救急応需体制の整備に向けて、健康福祉局精神保健課と連絡調整を行いました。 【今後の方向性】 ①③精神科救急患者受入数については、引き続き、救急患者の受入れが円滑にできるよう運用を続け、病病連携や院内他科連携の促進、県精神科救急体制との調整などを進めていきます。 ②④精神科救急応需日を増やすべく県市と調整中ですが、このためにも精神保健指定医は3名以上必要で各方面と相談、検討しています。また、精神保健福祉士の常勤化も検討しています。
-	-	1.0日	19.6日	【取組内容の状況と分析】 ①新型コロナウイルス感染症の影響により、検討委員会は開催されていません。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により、受入訓練は行われていません。 ③令和3年度は、新型コロナウイルス感染症患者を409名受け入れました。 ④医療従事者向け接種を院内で26,824人分実施し、また、市の集団ワクチン接種会場へ、医師及び看護師、薬剤師を週3回派遣しました。 ⑤高齢者施設ヘラウンド及び指導を行い、また、高齢者施設協議会に参加し、高齢者施設関係者への集団指導を行いました。 【今後の方向性】 ①検討委員会再開後に実施予定です。 ②合同訓練が再開するまでは、院内での個人防護服の着脱訓練を実施します。 ③～⑤引き続き取組を推進します。
3人以上	100.0%	変わらず	3人	【取組内容の状況と分析】 ①新型コロナウイルス感染症の影響により、検討委員会は開催されていません。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により、受入訓練は行われていません。 ③令和3年度は、新型コロナウイルス感染症患者を409名受け入れました。 ④医療従事者向け接種を院内で26,824人分実施し、また、市の集団ワクチン接種会場へ、医師及び看護師、薬剤師を週3回派遣しました。 ⑤高齢者施設ヘラウンド及び指導を行い、また、高齢者施設協議会に参加し、高齢者施設関係者への集団指導を行いました。 【今後の方向性】 ①検討委員会再開後に実施予定です。 ②合同訓練が再開するまでは、院内での個人防護服の着脱訓練を実施します。 ③～⑤引き続き取組を推進します。
-	-	変わらず	100%	【取組内容の状況と分析】 ①新型コロナウイルス感染症の影響により、検討委員会は開催されていません。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により、受入訓練は行われていません。 ③令和3年度は、新型コロナウイルス感染症患者を409名受け入れました。 ④医療従事者向け接種を院内で26,824人分実施し、また、市の集団ワクチン接種会場へ、医師及び看護師、薬剤師を週3回派遣しました。 ⑤高齢者施設ヘラウンド及び指導を行い、また、高齢者施設協議会に参加し、高齢者施設関係者への集団指導を行いました。 【今後の方向性】 ①検討委員会再開後に実施予定です。 ②合同訓練が再開するまでは、院内での個人防護服の着脱訓練を実施します。 ③～⑤引き続き取組を推進します。
-	-	-7.2%	93.3%	【取組内容の状況と分析】 ・自宅等退院率は、昨年度と比べて低下しました。原因としては、新型コロナウイルス感染症患者の加療後の転院（下り搬送）の影響が出ていると考えられます。 ・重症な新型コロナウイルス感染症患者へ、早期離床のためのリハビリテーションを行いました。今後は救命救急病棟でも実施する予定です。 ①新たに採用した4名の職員に対して、新人育成プログラムに則って指導を行いました。 ②③各病棟のカンファレンスに参加し、各病棟の疾患特殊性に合わせたリハビリテーションを行いました。また、各ベッドに配置してある床頭台のテレビに、リハビリテーション科で作成した動画を配信しました。 ④リハビリテーション科内での役割斑ごとのリーダーで会議を行い、マニュアル作成や業務改善を進めました。 【今後の方向性】 ・今後は救命救急病棟で、重症な新型コロナウイルス感染症患者への、早期離床のためのリハビリテーションを実施する予定です。 ・引き続きすべての取組を推進します。
-	-	4,785単位	101,132単位	【今後の方向性】 ・今後は救命救急病棟で、重症な新型コロナウイルス感染症患者への、早期離床のためのリハビリテーションを実施する予定です。 ・引き続きすべての取組を推進します。

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(5) その他医療提供体制の強化</b>				
④医療機能再編整備の推進	①機能再編推進委員会を適宜開催 ②エネルギー設備の更新（エネルギー棟・給水ポンプ棟の新築）の工事実施 ③救命救急センター棟増築・既存棟改修の設計完了	中期計画	-	-

**<外部評価> 委員会委員による意見等**

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。

なお、協議にあたり各委員から出された意見等は次のとおり。

【取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進】

・地域包括ケア推進に向けて、看護分野における市立病院の取組をより一層強化してほしい。具体的には、訪問看護ステーションに所属する看護師の市立病院における実習受け入れを希望する。



第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	-	-	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>①5月、7月、9月、12月、3月にそれぞれ実施しました。</p> <p>②エネルギー設備の更新に向け、エネルギー棟の建築工事を進めました。また、給水ポンプ棟の建築工事も着工しました。</p> <p>③救命救急センター棟増築・既存棟改修の設計を進めてきましたが、当該敷地に土壤汚染があることが判明したため、土壤汚染対策に係る設計等を追加したことから、設計工期を令和4年7月末まで延長しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きすべての取組を推進します。</li> </ul>

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 人材の確保と育成の推進</b>				
①医療従事者の確保	質の高い医療・看護を安定的に提供していくため優秀な医療人材の安定確保を図る。 ①採用選考の適切な実施による、優秀な臨床研修医の確保 ②大学医局等との連携による、常勤医の円滑な採用 ③看護師確保のための学校訪問、インターンシップ及び見学会、助産師・看護師の学生実習の受入等の実施	中期計画	職場に対する総合的な職員満足度〔職員満足度調査〕	35.1%
		中期計画	レセプト査定率	0.43%
②職員の専門能力の向上	①在職医師への臨床研修指導医講習会受講の推進 ②地域包括ケアシステムに参画できる認定看護師の育成 ③各種医療技術職員向け研修受講の推進・支援 ④看護師の特定行為研修の受講による専門的な知識及び技能の向上	中期計画	職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	53.1%
		中期計画	認定看護師の人数	31名
		中期計画	研修医1人あたりの指導医数	3.2名
③働きやすい職場づくり	①働き方改革推進委員会によるワーク・ライフ・バランスを実現する働く環境の整備 ②看護補助者・医師事務作業補助者のスキルアップ及び拡充による医師・看護職員等の業務負担の軽減 ③子育て支援や会計年度任用職員等の活用など、多様な働き方の推進 ④多職種のワークシフトによる医師業務負担軽減	中期計画	「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	42.6%

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	3.0%	32.1%	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>①臨床研修医の採用選考を8月に4日間実施し、過去最高の136名の応募があり、第一希望は39名でした。また、適切に採用選考を実施し、臨床研修医枠10名に対してフルマッチできました。また、医学部生による病院見学は見学会も含め、433名が参加しました。</p> <p>②大学医局等との連携により、令和3年度は常勤医師16名採用しました。</p> <p>③学校訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、パンフレットの送付を中心に行いましたが、訪問受け入れ可能な学校のみ13校訪問しました。また、インターンシップについては、病院内への立ち入りが難しいため中止していますが、病院見学会は現地開催4回、Web開催7回の計11回実施し、231名が参加しました。なお、助産師・看護師の実習受入については、感染症対策を十分に行い、5施設から実習生を受け入れました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きすべての取組を推進します。</li> </ul>
-	-	0.13%	0.30%	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>①令和3年度においては、医師3名（眼科1名、救急科2名）が臨床研修指導医講習会を受講しました。</p> <p>②④特定行為研修2名、認定看護師（認定看護師+特定行為研修）研修2名が受講を修了しました。</p> <p>③各種医療技術職員向け院内研修会や各種学会等が開催する研修会への参加を推進し、専門職としての能力の向上を支援しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各診療科の指導医数を勘案しながら受講対象診療科の医師を募り、院内研修体制の拡充を推進します。</li> <li>②～④引き続き取組を推進します。</li> </ul>
-	-	4.2%	48.9%	
-	-	変わらず	31名	
-	-	変わらず	3.2名	
-	-	1.8%	40.8%	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>①「病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画」をホームページに掲載するとともに、院内に掲示しました。</p> <p>②看護補助者を対象とした研修について、新型コロナウイルス感染症の感染対策として、ナーシングスキルや動画配信など研修方法を工夫し、6回実施しました。また、医師事務作業補助者を対象とした研修について、より多くの職員が実践的な研修を受けられるよう、開催時間や内容の見直しを行い、スキルアップを図りました。さらに、週末の退院後のベッド作成や夜間のオムツ交換の業務を看護助手に移管し、看護師の業務負担軽減を図りました。</p> <p>③会計年度任用職員の育児休業制度の活用や、育児休業中の職員の代替措置としての派遣職員の導入等を実施しました。</p> <p>④特定看護師や病棟薬剤師等の活用等によるワークシフトに取り組みました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①③引き続き取組を推進します。</li> <li>②新たな研修メニューの実施等により更なるスキルアップを図り、医師・看護職員等の業務負担の軽減につながるよう、移管できる業務を検討します。</li> <li>④特定看護師や病棟薬剤師等の拡充を進め、医師業務の負担軽減を図ります。</li> </ul>

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(2) 医療安全の確保・向上</b>				
○医療安全・院内感染対策の推進	①インシデント報告ならびに院内ラウンドを通じて院内各部署の医療安全管理の実施状況を把握、評価 ②医療安全管理に係る業務改善計画を策定し、業務改善を推進 ③感染症対策と職員の負担軽減を念頭に置いた新たな方法による医療安全管理に係る職員研修の実施 ④院内感染対策への取組みとして、サーベイランスの実施、アウトブレイクの早期発見、ICT介入による早期終息 ⑤感染対策部会のリンクスタッフらによる手指衛生の向上に向けた取組の推進 ⑥院内感染対策講習会として、全職員向けに複数回の研修会を開催	中期計画	体制の確保 (「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出)	届出(継続)
<b>取組項目(3) 患者に優しい病院づくり</b>				
○積極的な情報発信と相談体制の強化	①Wi-Fi設備の追加整備 ②訪日外国人旅行者受入れ医療機関としての施設の整備 ③ホームページやデジタルサイネージによる患者への情報発信 ④がん相談支援センターによる相談・情報提供体制の強化・推進 ⑤入院センターによる入院前からの患者支援体制の強化	中期計画 総合計画	入院患者満足度	90.4%
		中期計画 総合計画	外来患者満足度	69.3%
		総合計画	市民公開講座開催数	4回
		総合計画	がん相談件数	310人

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
--------------------	------------	------------	-----------------	------------------------

-	-	-	届出(継続)	<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>①インシデントレポートの提出を推進し、毎月約400件の報告を受け、重要インシデントについては共有し、対策を立案しました。また、院内ラウンドについては毎週、多職種チームで22部署88回、実施し、医療安全管理の現状の把握と対策を検討しました。</p> <p>②医療安全に関するマニュアル改訂や患者誤認防止、検査報告書の未読防止インシデントレポートをもとに、業務改善を進めました。</p> <p>③職員の負担軽減を考慮し、Webを用いた研修方法へ変更して開催しました。</p> <p>④院内感染対策への取組として、血液感染・尿路感染・手術部位感染・血液曝露・耐性菌サーベイランスを実施しました。また、ICU介入について、年/50回ラウンドを実施しました。なお、アウトブレイクは発生しませんでした。</p> <p>⑤看護部では各病棟ごと手指消毒薬使用回数率を集計・公表し、手指衛生の向上に向けた取組を推進しました。</p> <p>⑥医師、看護師、検査技師による研修を15回開催しました。</p> <p>【今後の方向性】 引き続きすべての取組を推進します。</p>
---	---	---	--------	--

89.3%以上	101.2%	2.0%	88.4%	<p>【成果指標及び取組内容の状況と分析】</p> <p>・市民公開講座については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため院内での開催を中止し、YouTubeへの動画掲載及び院外で1回開催しました。</p> <p>①感染症病棟、救急救命センター病棟、産科病棟及び各階デイルームにWi-Fi設備を設置しました。</p> <p>②外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)の認定取得に向け、認定要件の確認や、作業の進め方について検討しました。</p> <p>③新型コロナウイルスに関する当院の取組を、ホームページにて情報発信しました。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、がんサロンをオンラインによる開催に切り替えて開催し、相談体制の強化につなげました。</p> <p>⑤具体的な事例を共有する等、所属する職員のスキルアップに努めました。また、支援内容は病棟看護師、退院支援看護師と共有し、速やかな退院調整につなげました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>・市民公開講座については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、対面による講座方式に戻すことを検討します。</p> <p>①今後も未整備病棟への整備を進めていきます。</p> <p>②引き続きJMIPの認定取得に向けた取組を推進します。</p> <p>③認知症疾患医療センターなどの新しい取り組みや、がん診療に関する情報発信の充実に取り組んでいきます。</p> <p>④がんサロンについては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、集合開催を検討しつつ、内容の充実に取り組んでいきます。</p> <p>⑤引き続き取組を推進します。</p>
81.7%以上	84.8%	0.0%	69.3%	
6回	66.7%	-3回	7回	
300人以上	103.3%	04人	306人	

### ＜外部評価＞ 委員会委員による意見等

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。

なお、協議にあたり各委員から出された意見等は次のとおり。

【取組項目(1) 人材の確保と育成の推進】

- ・職員満足度調査について、調査結果を受けたフィードバックや対策に更に取り組んでほしい。
- ・看護師の処遇改善は公立病院に限らず必要である。



取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進</b>				
-	①午前退院・午後入院の促進、入院予約ベッド確保、診療科を超えた柔軟な病床管理、増大する救急やがん等の医療需要への積極的な対応など、入院患者数の増加、病床稼働率の向上等の取組の推進 ②未収金対策として、文書催告・電話催告、入退院時面談の実施強化 ③個室料金見直しの試行実施結果の検証を踏まえた他病棟への施行拡大	中期計画	医業収益の額	191.3億円
		中期計画	入院患者1人1日当たり診療収入(入院診療単価)	76,906円
		中期計画	外来患者1人1日当たり診療収入(外来診療単価)	18,177円
		中期計画※	病床利用率(許可)	64.4%
			病床利用率(稼働:参考)	78.4%
<b>取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進</b>				
-	①医療機器の購入にあたり、保守契約を含めた入札実施の検討・促進 ②医療機器保守契約の見直しによる委託料節減(MEセンターと協力) ③コンサルタント業者との連携による、材料費等の支出縮減に向けての取組 ④医療機器・診療材料・薬品の購買申請の価格交渉の強化	中期計画	職員給与費対医業収益比率	55.3%
		中期計画	委託費対医業収益比率	14.8%
<b>取組項目(3) 経営管理体制の強化</b>				
-	①経営会議による本計画の進捗管理の実施 ②病院幹部会議における病院経営状況等の報告 ③総合医療情報システムを用いた経営状況の周知 ④実現可能な施設基準取得への取組	中期計画	「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	16.3%
		中期計画	経営会議開催数	11回

<外部評価> 委員会委員による意見等

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。



第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	25.1億円	166.2億円	【取組内容の状況と分析】 ・入院患者1人1日当たり診療収入（入院診療単価）については、重症の新型コロナウイルス感染症患者の受入や手術件数の確保により、前年度と比較して増加しました。 ・外来患者1人1日当たり診療収入（外来診療単価）については、血液内科の化学療法により、前年度と比較して増加しました。
-	-	7,101円	69,805円	①新型コロナウイルス感染症病床を確保するため一般病床を一部縮小しましたが、診療科を超えた柔軟な病床管理（午前退院・午後入院の推進、救命病床の機能を一般床へ移す等）を行うことで、入院患者数の確保に努めました。
-	-	1,921円	16,256円	②令和3年度は文書催告7,269件、電話催告330件、面談51件を実施しました。
-	-	-1.0%	65.4%	③無菌室の整備に伴い、有償個室が減少したため、効率的な病床運用に資する個室の在り方について検討しました。 【今後の方向性】 引き続きすべての取組を推進します。 ※病床利用率は一般病床を基準としたもの
-	-	-7.2%	62.5%	【取組内容の状況と分析】 ①保守契約を含めた入札を1件実施しました。
-	-	-2.1%	16.9%	②次年度の予算要求にあたり、MEセンターや院内各所属の協力を得ながら保守内容の見直しを進め、委託料の抑制を図りました。 ③メーカーや仲卸業者との価格交渉を実施し、薬剤及び診療材料等の納入価格引き下げに取り組みました。 ④メーカーや仲卸業者との価格交渉を複数回、病院長自ら実施することで、交渉内容を強化しました。 【今後の方向性】 引き続きすべての取組を推進します。
-	-	-1.5%	17.8%	【取組内容の状況と分析】 ①本庁部門と各病院三役等が出席する経営会議で、本計画の進捗を確認しました。
-	-	-1回	12回	②毎月開催の経営会議にて経営状況等を報告し、各所属長へ情報を周知しました。 ③各診療科ごとの稼動状況を、総合医療情報システムを用いて周知しました。 ④病院長、事務局長を中心に各部門からメンバーを集め、積極的に情報を収集しました。また、施設基準ワーキングを実施し、診療報酬改定によって新設された新規施設基準の取得を検討しました。 【今後の方向性】 引き続きすべての取組を推進します。

取組課題1

医療機能の充実・強化

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化</b>				
①救急医療（初期・二次）の強化	①川崎病院との連携による平日日勤・準夜帯の救急受入体制強化 ②職員の意識啓発に努め、救急搬送及びウォークイン患者の非応需率低下に向けた取組の推進 ③救急医療における院内トリアージの強化	中期計画	救急自動車搬送受入台数	2,392件
		中期計画 総合計画	救急患者数	7,964人
②災害医療機能の維持	①災害協力病院として災害医療対応能力の更なる向上と全職員の役割発揮を図るための災害医療訓練の実施 ②災害用備蓄品の計画的な入替えの実施 ③災害発生時の医療強化に向けたDMAT-L 隊員の育成	中期計画	災害拠点病院と連携した災害訓練の実施	実施
		中期計画	食料・飲料水・医薬品の院内備蓄確保量	3日分

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	199件	2,193件	<p>【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症患者の受入体制確保のために一般病棟の一部をコロナ専用病床としたことなどにより、一時的に救急車応需数は低下しましたが、令和3年度の救急車の応需数は約200件増加し、2,392件となりました。</li> <li>①重症患者や救急科が対応すべき入院適応患者について、川崎病院と連携して受入れを行い、そのためのツールとして、直通的川井田ホットラインを設置しました。</li> <li>②③日勤～準夜帯にかけて、研修医の救急教育をおこなうとともに、診療科の当直医と協力し診療することにより、診療中の患者の診療科を超えた引き継ぎがより円滑になりました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年7月から中原区2次救急当番制（試行）を開始し、働き方改革の観点からも効率的な救急医療の運営を進めてまいります。</li> <li>・市立川崎病院との連携を強化し、引き続き「断らない救急」を目指してまいります。</li> <li>・引き続き全ての取組を推進します。</li> </ul>
9,200人	86.6%	711人	7,253人	
-	-	-	実施	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、大規模な訓練は行えていませんが、外部機関との定期的な通信訓練のほか、災害時医療等委員会内で机上訓練を実施し、対応について協議を行いました。</li> <li>②災害用備蓄品は期限に応じて適宜入れ替えを行い、常時3日分を確保しています。</li> <li>③DMAT及びDMAT-L 隊員養成研修については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で延期しました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院は、神奈川県から令和4年7月1日に大規模災害時の医療救護活動の拠点となる災害拠点病院として指定を受けました。引き続きすべての取組を推進するとともに、災害時に他の災害拠点病院、災害協力病院等と連携、協力して医療を提供する役割を担ってまいります。</li> </ul>
-	-	-	3日間分	

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充</b>				
①地域がん診療連携拠点病院としての機能強化	①対策型検診と任意型検診の受診促進に向けた活動と受入調整 ②県内のがん拠点病院で構成する協議会、部会に出席・情報交換 ③がんサロン、ピアサポート、患者力を考える会等の実施	中期計画 総合計画	がん登録数 (報告値)	1,254件
		中期計画	内視鏡検査件数	5,611件
		中期計画 総合計画	内視鏡治療件数	620件
		中期計画	がん手術件数	459件
		総合計画	がんサロン開催数	0回
②緩和ケアの推進	①緩和ケア内科の医師を確保し、緩和ケアの外来、入院、在宅、救急ニーズへの適切な対応 ②緩和ケア内科の初診を円滑に受けられるよう調整 ③在宅緩和ケアの積極的実施・充実強化 ④地域医療従事者を対象に緩和ケア研修会を開催し、緩和ケアの普及・啓発の実施	中期計画 総合計画	緩和ケア患者の 受入人数	546人
		中期計画 総合計画	訪問診療件数	1,214件

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
1,300件以上	96.5%	-191件	1,445件	<p>【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内がん登録システムを活用し、登録対象を効率的に見つけ出し、作業を行いました。</li> <li>・内視鏡治療件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えにより、目標値を達成できませんでした。</li> </ul>
-	-	352件	5,259件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん手術件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、手術の実施件数は減少していますが、地域がん診療連携拠点病院の指定要件である年間400件以上を達成するとともに、ほぼ昨年度並みの件数を確保できました。</li> <li>・ロボット支援下での新たな術式（膀胱全摘術）や、周囲の臓器に影響を及ぼさず、高い精度で病巣のみを治療することができる高精度放射線治療システムを導入するなど、がん診療の内容充実を図りました。</li> </ul>
720件以上	86.1%	112件	508件	<p>①コロナの影響による受診控えで、検診者数が減少していましたが、延期していた方に電話等で説明を行い、検診者数の増加に努めました。</p> <p>②神奈川県がん診療連携協議会（7月・3月）及び薬物療法部会（9月・3月）・相談支援部会（6月・2月）・クリティカルパス部会（2月）にオンライン会議で出席し、県内のがん診療連携拠点病院と情報を共有しました。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、開催を見送りました。</p>
-	-	14件	445件	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡治療件数については、引き続き市民公開講座や出前講座等による啓発活動に取り組み、症例確保に取り組んでいきます。</li> </ul>
22回	0%	0回	0回	<p>①本年7月に開設したがん・総合健診センターにおける健診強化の一つとして、肺がんのCT検査などの精度の高いがん検診を実施していきます。</p> <p>②引き続き取組を推進します。</p> <p>③令和4年度から新型コロナウイルス感染症に配慮した、オンライン形式のがんサロンを開催します。</p>
552人以上	98.9%	57人	489人	<p>【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア患者の受入人数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えや面会制限等により、入院を控え自宅での療養を選択する患者や患者家族が多かったため、上半期は伸び悩みましたが、緊急事態宣言が終了した下半期は前年比増が続き、ほぼ目標値を達成しました。</li> </ul> <p>①緩和ケア内科の医師確保が厳しい中で、医療の質を落とすことなく継続し、外来・入院・在宅・救急ニーズに院内全体で取り組みました。</p> <p>②緩和ケア内科の初診の枠を増やし、緩和ケア相談を積極的に受け入れました。</p> <p>③緊急の往診導入や在宅看取り等の困難ケースを積極的に受け入れ、体制の充実強化を図りました。</p> <p>④緩和ケア研修会はeラーニング受講が可能となり、ワークショップ中心の研修会を川崎病院と共催しました。</p>
1,700件以上	71.4%	2件	1,212件	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア内科の医師を安定的に確保することで、外来・在宅・救急のニーズに24時間対応できる診療体制を継続的に維持できるよう、今後も取組みを継続します。</li> <li>・緩和ケア患者の受入人数については、スクリーニングの強化やリンクナースの協力を得て、介入件数が増加するように努め、受入数確保に取り組んでいきます。</li> </ul> <p>①②④引き続き取組を推進します。</p> <p>③引き続き緩和ケア病棟と在宅部門との連携を強化し、在宅支援につなげていきます。</p>

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実</b>				
①チーム医療の推進	①緩和ケアチームによる症状緩和、カウンセリングなどの総合的な支援の実施 ②緩和ケアの研修及び教育の実施 ③神奈川県がん診療連携協議会・緩和ケア部会、学会などへの参加及び協力 ④緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策チームによる定例介入の実施 ⑤NST専従、専任者研修をはじめとしたスタッフの充実、研修及び教育	中期計画	緩和ケアチームによる症状緩和実施延べ患者数	239人
		中期計画	栄養サポートチーム回診延べ患者数	1,075人
		中期計画	褥瘡院内発生件数	57件
②成人疾患医療の充実	①糖尿病教育入院の着実な実施 ②認定看護師を中心とした外来からの生活指導と療養支援の強化（禁煙外来・フットケア外来・在宅酸素外来など）	中期計画	糖尿病教育入院実患者数	37人
		中期計画	専門外来の設置数	23



第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	-190人	429人	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケアチームによる症状緩和実施延べ患者数及び栄養サポートチーム回診延べ患者数については、新型コロナウイルス感染症の影響による病床編成の変更に伴う入院患者数の減少により、前年度と比較してそれぞれ減少しました。</li> </ul> <p>①1日10名前後のがん・非がん患者の全人的苦痛への症状緩和に対し支援を実施しました。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症への感染予防対策を実施し、緩和ケアスキルアップフォローアップ研修会を5月に実施しました。</p> <p>③神奈川県がん診療連携協議会緩和ケア部会（11月）にオンライン会議で出席し、県内のがん診療連携拠点病院と情報を共有しました。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症の影響による病床編成の変更に伴い、入院患者数は減少しましたが、栄養サポートチームの介入数は昨年度比で増加しました。また、緩和ケアチームの介入数は昨年度比で減少しました。褥瘡対策チームについては、発生患者に対し早期から介入することができました。褥瘡院内発生件数は、入院患者数の減少に伴って減少しました。</p> <p>⑤本年度は専任者研修に薬剤師1名が参加しました。スタッフの教育については、緊急事態宣言の状況により対象者を調整したうえで勉強会を開催しました。</p>
-	-	-15人	1,090人	<p>③神奈川県がん診療連携協議会緩和ケア部会（11月）にオンライン会議で出席し、県内のがん診療連携拠点病院と情報を共有しました。</p> <p>④新型コロナウイルス感染症の影響による病床編成の変更に伴い、入院患者数は減少しましたが、栄養サポートチームの介入数は昨年度比で増加しました。また、緩和ケアチームの介入数は昨年度比で減少しました。褥瘡対策チームについては、発生患者に対し早期から介入することができました。褥瘡院内発生件数は、入院患者数の減少に伴って減少しました。</p> <p>⑤本年度は専任者研修に薬剤師1名が参加しました。スタッフの教育については、緊急事態宣言の状況により対象者を調整したうえで勉強会を開催しました。</p>
-	-	-2件	59件	<p>【今後の方向性】</p> <p>①③⑤引き続き取組を推進します。</p> <p>②今年度は全5回実施予定です。</p> <p>④緩和ケアチームについては、診断期からの介入や緩和ケアのスクリーニングの推進に取り組んでいきます。栄養サポートチームについては、引き続きチームの教育を行いながら、リンクナース、緩和チーム、嚥下チームなどと協力し、栄養サポートを行っていきます。褥瘡対策チームは、リンクナースの育成を図り、日々の予防的介入の質が向上するよう取り組んでいきます。</p>
-	-	2人	35人	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門外来は在職医師の資格等にも影響を受けるため、設置数は減少しました。</li> <li>患者の医療ニーズに合わせた支援を行うとともに、患者一人一人に寄り添った診察となるよう配慮しました。</li> </ul> <p>①1週間及び2週間の2種類のコースを行っており、期間外でも全身精査、合併症評価、糖尿病教育と血糖コントロールと並行して行うよう準備しました。</p> <p>②認定看護師と外来看護師を中心に生活指導や療養支援を行い、フットケア外来236件、がん看護外来396件、禁煙外来46件を行いました。</p>
-	-	-5	28	<p>【今後の方向性】</p> <p>①今後は血糖コントロールと、糖尿病に対する教育を並行して入院中に行う患者を増やす取組を推進します。</p> <p>②引き続き取組を推進します。</p>

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進</b>				
①地域医療連携の推進	①地域の医療機関・関係機関への訪問の強化 ②診療科の紹介冊子の作成 ③地域連携の会の開催または代替案の検討 ④紹介状に対する返書の徹底 ⑤地域の医療従事者向け研修会の開催 ⑥在宅療養後方支援病院としての広報活動の強化	中期計画	地域医療支援病院の承認	取組の継続
		中期計画	紹介率	56.0%
		中期計画	逆紹介率	68.3%
		中期計画	検査機器の共同利用件数	319件
		総合計画	紹介患者数	5,135人
②医療依存度の高い患者に対する在宅医療の提供	①がん末期、医療依存度の高い患者に対して、退院の時期を逸しないために、当院からの訪問診療導入のコンサルテーション機能の充実 ②症状悪化時の緊急往診の受入れだけでなく、家族に対してのメンタルケアの充実 ③病棟看護師による退院前後訪問の推進 ④地域医療部・病棟・外来の連携強化による退院支援の充実	中期計画	医療依存度が高い患者に対する往診患者実数	179人
		中期計画	24時間連携登録医からの受入患者数	368人



第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	-	取組の継続	【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】 ・新型コロナウイルス感染症の患者受入による不急の手術停止や入院制限の影響を受け、紹介患者数は減少しました。 ・地域医療支援病院の承認については、要件となっている紹介率50%以上、逆紹介率70%以上を目標に紹介・逆紹介の取組みを推進しました。
-	-	-1.5%	57.5%	①コロナの感染拡大対策により訪問を控えていましたが、10月から各診療科部長と開業医訪問を再開しました。 ②最新の状況に更新して作成し、開業医訪問または地域医療部への来客があった際に配布しました。
-	-	5.5%	62.8%	③今年度も地域連携の会の代替案として、診療科及びコロナへの対応を紹介したDVDを作成し、連携登録医あてに送付しました。 ④返書が必要な患者の抽出方法及び医師への記載依頼について検討しました。
-	-	-135件	454件	⑤10月から地域の医療従事者向けの研修会を実施しました。 ⑥ホームページへの掲載、介護事業所訪問時に制度概要のチラシを持参し、周知を行いました。 【今後の方向性】
6,590人以上	77.9%	-513人	5,648人	①各診療科の医師と共に開業医訪問等を実施し、患者確保に努めていきます。 ④逆紹介率の向上に向けて、医師に対して返書管理等の呼びかけを行なっていくとともに、地域医療支援病院や紹介受診重点医療機関の承認を目指します。 ②③⑤⑥引き続き取組を推進します。
-	-	10人	169人	【取組内容の状況と成果の分析】 ・新型コロナウイルス感染症の影響による面会制限もあり、在宅看取りを希望する患者家族が増え、医療依存度が高い患者に対する往診患者実数が増加しました。その結果、急変時には当院への24時間受入体制を望む患者や患者家族も増加し、24時間連携登録医からの受入患者数も増加しました。
-	-	135人	233人	①がん相談員及び在宅部門、退院調整看護師等が早期に患者情報を共有し、訪問診療の導入についてコンサルテーションの充実に努めました。 ②緊急往診時には、患者だけでなく介護している家族へのわかりやすい病状説明を心掛け、疑問や不安などを傾聴し、メンタルサポートに努めました。 ③医療機器の導入や医療処置の必要な患者には、病棟で担当した看護師と共に退院前後訪問を実施しました。 ④入院が決定した患者に対し、外来看護師と地域医療部入院支援看護師が連携し、入院に対する不安や自宅での生活状況等を聴取し、病棟看護師と共有し、入院前からの退院支援に努めました。 【今後の方向性】 ①医療依存度の高い患者の在宅での過ごし方等、患者やその家族の思いを尊重し、個別性のある対応が必要になるため、引き続き退院調整カンファレンス等を開催するなどの支援に努めていきます。 ②～④引き続き取組を推進します。

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進</b>				
③地域包括ケア病床の整備と運営	①地域包括ケア病床の充実 ②院外からの積極的な患者受入体制の構築 ③円滑な病床運営のための課題抽出及び対策の検討 ④多職種による患者受入会議の定期的開催	中期計画	地域包括ケア病床の整備	継続
		中期計画 総合計画	地域包括ケア病床の病床利用率	52.4%

**<外部評価> 委員会委員による意見等**

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。

なお、協議にあたり各委員から出された意見等は次のとおり。

**【取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進】**

・地域包括ケア推進に向けて、看護分野における市立病院の取組をより一層強化してほしい。具体的には、訪問看護ステーションに所属する看護師の市立病院における実習受け入れを希望する。

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	-	継続	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う病床編成の変更により、8月25日から病棟閉鎖を行ったため、病床利用率は低く推移しました。</p> <p>②新任の地域包括ケア病床の関係者等を対象に、病棟の運用に関する勉強会を開催しました。</p> <p>③④毎週火曜日に行っていた多職種による地域包括ケア病棟運営会議を病棟カンファレンスに変更し、リアルタイムで転棟候補者を把握し、病床運営のための課題抽出及び対策の検討を行いました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>診療報酬改定に伴う対応として、一般病棟からの転棟患者割合6割未満の達成を目指すともに、他病院等からの受け入れを増やす等、引き続き全ての取組を推進します。</p>
85.0%以上	61.6%	-21.1%	73.5%	

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 人材の確保と育成の推進</b>				
①医療従事者の確保	①採用選考の適切な実施による優秀な初期臨床研修医、専攻医の確保 ②大学医局等との連携による常勤医の確保 ③看護師確保のための学校訪問やインターンシップ、看護師等医療技術職の学生実習の受入 ④院外における就職説明会・学校訪問の積極的な参加 ⑤診療科特性に応じた保険委員会・DPC委員会の開催による診療報酬請求事務の強化及び専門能力の向上	中期計画	職場に対する総合的な職員満足度〔職員満足度調査〕	40.1%
		中期計画	レセプト査定率	0.15%
②職員の専門能力の向上	①人材育成計画に基づき各種研修会、講習会を開催 ②情報セキュリティ個人情報保護研修を含めた倫理研修の開催 ③認定看護師の育成及び特定行為研修（在宅ケアプラン）への派遣 ④在職医師へ臨床研修指導医講習会受講の奨励	中期計画	職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	54.1%
		中期計画	認定看護師の人数	20名
		中期計画	研修医1人あたりの指導医数	3.5名
③働きやすい職場づくり	①医師事務作業補助者の増員や病棟薬剤師の配置など多職種連携によるタスクシフト・タスクシェアリングを積極的に推進 ②会計年度任用職員の任用などによる退職や産休・育児等に伴う欠員の減少	中期計画	「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	51.1%

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	3.1%	37.0%	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。</li> <li>①臨床研修医の採用選考を8月に2日間実施し、過去最高の35名の応募がありました。専攻医については昨年度応募がありませんでしたが、今年度は1名の応募がありました。また、医学部生による病院見学は71名が参加しました。</li> <li>②大学医局等との連携や採用選考の適切な実施により、職員の確保に努めました。</li> <li>③新型コロナウイルス感染症の感染予防を行い、学生実習を3校受け入れました。また、インターンシップについては、病院内への立ち入りが難しいため中止していますが、病院見学会は現地開催4回、Web開催7回の計11回実施し、185名が参加しました。</li> <li>④学校訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、パンフレットの送付を中心に行いましたが、訪問受け入れ可能な学校のみ13校訪問しました。</li> <li>⑤全職員を対象としたDPC分析・診療報酬勉強会を開催し、職員の知識向上に努めました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き全ての取組を推進します。</p>
-	-	-0.04%	0.19%	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。</li> <li>①人材育成計画に基づき病院局が主催する集合教育と看護部教育委員会等が計画する研修や講習会を開催し、専門職として常に最善のケアを提供するための知識・技術・態度の向上に取り組みしました。</li> <li>②新規採用職員に対して、情報セキュリティ個人情報保護研修を含めた倫理研修を実施しました。</li> <li>③認知症ケア認定看護師養成学校へ1名派遣しました。</li> <li>④臨床研修指導医講習会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から開催していませんでしたが、リモートで実施する機関があったため、今年度は1人受講することができました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①②引き続き取組を推進します。</li> <li>③今後は、特定分野における認定看護師の育成に努めていきます。</li> <li>④今後は、若手医師を中心に指導医確保に努めていきます。</li> </ul>
-	-	1.0%	53.1%	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。</li> <li>①人材育成計画に基づき病院局が主催する集合教育と看護部教育委員会等が計画する研修や講習会を開催し、専門職として常に最善のケアを提供するための知識・技術・態度の向上に取り組みしました。</li> <li>②新規採用職員に対して、情報セキュリティ個人情報保護研修を含めた倫理研修を実施しました。</li> <li>③認知症ケア認定看護師養成学校へ1名派遣しました。</li> <li>④臨床研修指導医講習会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から開催していませんでしたが、リモートで実施する機関があったため、今年度は1人受講することができました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①②引き続き取組を推進します。</li> <li>③今後は、特定分野における認定看護師の育成に努めていきます。</li> <li>④今後は、若手医師を中心に指導医確保に努めていきます。</li> </ul>
-	-	1名	19名	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。</li> <li>①臨床研修医の採用選考を8月に2日間実施し、過去最高の35名の応募がありました。専攻医については昨年度応募がありませんでしたが、今年度は1名の応募がありました。また、医学部生による病院見学は71名が参加しました。</li> <li>②大学医局等との連携や採用選考の適切な実施により、職員の確保に努めました。</li> <li>③新型コロナウイルス感染症の感染予防を行い、学生実習を3校受け入れました。また、インターンシップについては、病院内への立ち入りが難しいため中止していますが、病院見学会は現地開催4回、Web開催7回の計11回実施し、185名が参加しました。</li> <li>④学校訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、パンフレットの送付を中心に行いましたが、訪問受け入れ可能な学校のみ13校訪問しました。</li> <li>⑤全職員を対象としたDPC分析・診療報酬勉強会を開催し、職員の知識向上に努めました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き全ての取組を推進します。</p>
-	-	-0.3名	3.8名	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。</li> <li>①臨床研修医の採用選考を8月に2日間実施し、過去最高の35名の応募がありました。専攻医については昨年度応募がありませんでしたが、今年度は1名の応募がありました。また、医学部生による病院見学は71名が参加しました。</li> <li>②大学医局等との連携や採用選考の適切な実施により、職員の確保に努めました。</li> <li>③新型コロナウイルス感染症の感染予防を行い、学生実習を3校受け入れました。また、インターンシップについては、病院内への立ち入りが難しいため中止していますが、病院見学会は現地開催4回、Web開催7回の計11回実施し、185名が参加しました。</li> <li>④学校訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、パンフレットの送付を中心に行いましたが、訪問受け入れ可能な学校のみ13校訪問しました。</li> <li>⑤全職員を対象としたDPC分析・診療報酬勉強会を開催し、職員の知識向上に努めました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き全ての取組を推進します。</p>
-	-	4.3%	46.8%	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。</li> <li>①医師の事務作業量の軽減を図るため、医師事務作業補助者の採用を積極的に行い、20名を確保しました。確保した医師事務作業補助者を適正に配置することで、医師の業務負担軽減に努めました。また、病棟薬剤師については、1病棟に配置しました。</li> <li>②会計年度任用職員の採用については、ハローワークやホームページ、各種広告媒体を活用して確保に努めました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き医師事務作業補助者を含めた会計年度任用職員の募集、採用を積極的に行い、業務内容の拡充及び業務範囲の拡大、退職や産休・育休等に伴う欠員の状況に応じて必要な体制確保を目指していきます。病棟薬剤師については、さらに1病棟に追加配置したところです。</p>

取組課題2 医療の質と患者サービスの向上

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(2) 医療安全の確保・向上</b>				
○医療安全・院内感染対策の推進	①医療事故防止対策・感染防止対策を推進し医療の質を確保 ②施設基準「医療安全対策加算1」、「感染防止対策加算1」、「抗菌薬適正使用支援加算」の届出継続を維持 ③医療安全対策・感染対策について、職員向け研修会の開催	中期計画	体制の確保 (「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出)	届出(継続)
<b>取組項目(3) 患者に優しい病院づくり</b>				
○市民に信頼される医療の提供と分かりやすい情報の発信	①市民公開講座・出前講座など市民向け啓発活動の推進 ②病院モニター会議の開催 ③外来休診情報の公開などホームページを活用した患者さんへの積極的な情報発信	中期計画 総合計画	入院患者満足度	92.7%
		中期計画 総合計画	外来患者満足度	87.4%
		総合計画	市民公開講座等開催数	22回

**<外部評価> 委員会委員による意見等**

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。

なお、協議にあたり各委員から出された意見等は次のとおり。

【取組項目(1) 人材の確保と育成の推進】

- ・職員満足度調査について、調査結果を受けたフィードバックや対策に更に取り組んでほしい。
- ・看護師の処遇改善は公立病院に限らず必要である。



第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	-	届出(継続)	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <p>①インシデントは1,844件、アクシデントは5件の報告がありました。また、他院との医療安全対策相互評価を10月に行いました。</p> <p>②研修会や感染防止対策加算1-1ラウンド、1-2カンファレンス等も計画通り実施しました。医療安全対策に係る適切な研修を修了した専従の看護師、薬剤師その他の医療有資格者を医療安全管理者として配置しました。</p> <p>③全職員対象の安全研修は新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、ビデオ研修として開催しました。また、新型コロナウイルス感染症を含めた様々な院内感染対策の取組を、研修会やポスター掲示等を通して啓発しました。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き全ての取組を推進します。</p>
91.3%以上	-	3.1%	89.6%	<p>【成果指標及び取組内容の状況と成果の分析】</p> <p>・入院患者満足度は7月6日から8月31日まで、外来患者満足度は7月12日から14日まで実施しました。</p> <p>①市民公開講座については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、病院内で開催することを見送ったため、事前に収録した動画をホームページに掲載し、Web市民公開講座を開催しました。また出前講座については、新型コロナウイルス感染症の感染対策をテーマに、病院ホームページ等で実施施設を募り、応募があった施設に看護師等を派遣して開催しました。</p> <p>②第5期病院モニター会議を书面開催により1月に開催しました。</p> <p>③ホームページに新型コロナウイルス感染症関連の専用ページを作成し、積極的な情報発信を行いました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>①今後もWeb市民公開講座等を開催し、市民の健康増進に寄与していきます。</p> <p>②③引き続き取組を推進します。</p>
82.6%以上	-	2.2%	85.2%	
12回	183.3%	14回	8回	

取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進</b>				
-	①目標管理制度の活用による定期的な診療収入増加に向けた取組状況の確認 ②入院診療単価を引き上げるために、要手術患者の入院増加、平均在院日数の短縮 ③弁護士を活用した滞納債権回収の強化 ④午前退院・午後入院の促進など適切なベッドコントロールの実施及び地域包括・一般床・緩和・救急後方の各病棟における適正なベッド管理	中期計画	医業収益の額	71.5億円
		中期計画	入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	53,936円
		中期計画	外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	17,869円
		中期計画 ※	病床利用率(許可)	61.2%
			病床利用率(稼働)参考)	69.3%
<b>取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進</b>				
-	①各所属における医療機器保守業務委託の仕様見直し及び契約額の削減化 ②川崎病院との材料購入に関する情報交換・共同購入による経費節減の実施 ③無駄な在庫を持たないよう効率的な在庫管理を図り、経費節減の実施	中期計画	職員給与費対 医業収益比率	77.6%
		中期計画	委託費対 医業収益比率	18.2%



第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	-6.3億円	77.8億円	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、市内唯一の結核病床を用途転換するなど、県下最大規模となる92床の専用病床の整備・拡充を行い、延6,235人の陽性患者の入院受け入れを行うとともに、病院の敷地にテントによる発熱者専用の外来を設置して感染疑いの患者に対応したほか、感染有無の確認のための院内検査体制の拡充など、誰もが安心して暮らせる公的医療を提供するために、積極的に取り組みました。</li> <li>①新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う病床編成の変更により、患者数が減少したため、入院・外来収益ともに減収となりました。</li> <li>②新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う病床編成の変更を行いました。手術件数については昨年度より回復してきており、在院日数については、患者数の減少の影響もあり、例年より短縮しました。</li> <li>③未収金対策については、未収発生から早期の段階で電話催告、文書催告を実施するなどきめ細かい対応を行いました。さらに弁護士を活用することにより、効率的に滞納債権の回収に取り組みました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き全ての取組を推進するとともに、健診強化の取組としてがん・総合健診センターを開設し、患者数の確保に努めます。手術につながる症例や救急患者など急性期症例の確保に努め、リハビリテーションを強化していきます。</p> <p>※病床利用率は一般病床を基準としたもの</p>
-	-	5,170円	48,766円	
-	-	-1,141円	19,010円	
-	-	-5.0%	66.2%	
-	-	6.4%	71.2%	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①既存の保守契約については、契約内容及び仕様を見直し、保守対応時間の変更、点検回数・オプションの削減等を行うことで、複数の契約で契約金額を削減しました。また、新規の保守契約を検討する機器については、最低限の仕様に抑制し、それ以外の機器は都度修理対応とすることで費用の削減に取り組みました。</li> <li>②診療材料の購入については、川崎病院との情報交換、ベンチマークシステムの活用や、外部委託業者と連携した価格交渉を行いました。新型コロナウイルス感染症による診療材料への影響が続く中で、同等品の採用等により欠品が生じないよう診療材料を確保するとともに、購入金額を可能な限り抑えるよう取り組みました。また、少量のみ必要な物品等については、川崎病院から融通してもらうなど、共用化の取組を行いました。</li> <li>③昨年に引き続き、SPD（院内物流管理受託業者）と共同で年2回、倉庫から払出後の使用状況に関わる実地検査を実施し、使用期限の確認や各所属への注意喚起を行いました。払出しの定数については随時見直しを実施するとともに、一定期間動きがない定数設定については削除を進めました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き全ての取組を推進するとともに、非常勤医師の採用状況や時間外勤務の実態の検証及び改善等を図ります。</p>
-	-	0.9%	17.3%	

取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(3) 経営管理体制の強化</b>				
-	①全職員を対象とした経営情報の発信及び病院の運営方針に関する説明会の開催 ②診療科等に対する経営に関するヒアリングの実施 ③病院経営戦略会議の定期開催	中期計画	「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	18.9%
		中期計画	経営会議開催数	11回

**<外部評価> 委員会委員による意見等**

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	-1.7%	20.6%	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は7月6日から8月31日まで実施しました。</li> </ul> <p>①年度当初、全職員を対象に、病院長による「病院運営方針等説明会」を開催し、今年度の病院としての重点取組項目（「新型コロナウイルス感染症対策」「がん診療の推進」「在宅療養支援の推進」「2次救急医療の体制強化」「地域医療連携の推進」「医療の質の向上」「井田病院の特色・強みの強化」）について周知しました。</p> <p>②診療科やメディカルスタッフ部門等を対象とした、病院長等幹部職員による経営や病院運営に関するヒアリングを実施しました。</p> <p>③本庁部門と各病院三役等が出席する経営会議を定期的に行いました。</p>
-	-	-1回	12回	<p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き全ての取組を推進するとともに、病院独自で経営戦略を考え、病院長等によるヒアリングを強化し、予算作成への関与など、経営意識の涵養に努めます。職員による経営参画のためのワークショップの開催を検討します。</p>

## 取組課題1

## 医療機能の充実・強化

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化</b>				
①救急医療 (一次(初期)・二次) の安定的な提供	①救急専門医、小児科医の安定的な確保 ②川崎市二次救急輪番制への参加	中期計画	救急自動車搬送 受入台数	4,147件
		中期計画 総合計画	救急患者数	8,507人
②災害医療機能の維持	①災害派遣医療チームの隊員の増員 ②災害訓練の実施 ③備蓄品(食料、飲料水、医薬品)の適切な補充・交換	中期計画	DMAT隊員 養成研修 修了者数	11人
		中期計画	食料・飲料水・ 医薬品の院内 備蓄確保量	維持
<b>取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充</b>				
○診療機能強化と報告の推進	①化学療法の積極的な実施 ②「地域がん登録」、「全国がん登録」への参加	中期計画	がん登録数 (報告値)	580件
		中期計画	がん手術件数	369件

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	569件	3,578件	<p>【成果指標及び取組内容の状況と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救急自動車受入台数については、昨年度と比較して増加しました。</li> <li>救急患者数は、新型コロナウイルス感染症患者の受入体制確保のために一般病棟の一部を休床、コロナ専用病床としたことなどにより、目標を達成できませんでした。</li> </ul> <p>①救急専門医を4名、小児科医を9名確保し、24時間365日の救急医療・小児救急医療等を提供しました。</p> <p>②川崎市二次救急輪番制へ継続的に参加しました。</p>
13,000人	65.4%	687人	7,820人	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救急自動車搬送受入台数は5,000台を、救急患者数は、13,000人を目標に積極的に受入れを行っていきます。</li> <li>初期、後期研修医による救急診療の質の向上を図ります。</li> <li>引き続き①②について取り組みを推進します。</li> </ul>
-	-	変わらず	11人	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <p>①養成研修会が行われる度に参加を要望していますが、希望が通らず参加が叶っていません。なお、維持研修は随時参加しています。</p> <p>②災害訓練の実施：10/2(土)に『水害』をテーマとして84名の参加のもと実施しました。</p> <p>③各備蓄品は消費期限に応じ、その都度更新しています。</p>
-	-	-	3日間分	<p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き①②③について取り組みを推進します。</p>
-	-	-30件	610件	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <p>①化学療法は1,591件実施しており、前年度と比較して236件減少しました。</p> <p>②がん登録数は580件であり、前年度と比較して30件減少しました。</p>
-	-	-3件	372件	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん手術件数は369件であり、前年度と比較して3件減少しました。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>①②について取り組みを推進します。</p>

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実</b>				
①循環器内科における診療の充実	①循環器内科医の安定的な確保 ②心疾患領域における短期入院診療の充実	中期計画	心臓血管系造影件数	507件
		中期計画	循環器内科入院・外来延患者数	17,423人
②脳神経外科における診療の充実	①脳神経外科医の安定的な確保 ②血栓溶解療法（t-PA治療）の実施 ③専門外来の継続	中期計画	脳血管系造影件数	80件
		中期計画	脳神経外科入院・外来延患者数	11,096人

<b>取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進</b>				
①地域医療支援病院の運営と強化	①登録紹介医制度の推進 ②検査機器等の共同利用の推進	中期計画	紹介率	75.2%
		中期計画	逆紹介率	70.4%
		中期計画	検査機器の共同利用件数	3,721件
②地域包括ケアシステムの推進	①在宅療養を支援するため、地域の訪問看護ステーション等と意見交換を行う「多摩区・病院と在宅ケアネットワークづくりを目指す会」の充実 ②地域医師会との懇親会の定期開催	中期計画	地域関係施設との連絡調整会議への参加回数	4回
		中期計画	有識者を参集して行われた連携会議等の回数	4回

**＜外部評価＞ 委員会委員による意見等**

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。  
なお、協議にあたり各委員から出された意見等は次のとおり。

【取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進】

・地域包括ケア推進に向けて、看護分野における市立病院の取組をより一層強化してほしい。具体的には、訪問看護ステーションに所属する看護師の市立病院における実習受け入れを希望する。

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	1件	506件	<p>【取組内容の状況と成果の分析】</p> <p>①②循環器内科医の安定的な確保に努め、心疾患領域における短期入院診療の充実を図った結果、心臓血管系造影件数は前年度と比較し1件増加し、循環器内科外来延患者数が1,420名増加、入院延患者数は465名増加しました。</p>
-	-	1885人	15,538人	<p>【今後の方向性】</p> <p>循環器内科でのアブレーションを含めたインターベンションの拡充を推進します。</p>
-	-	19件	61件	<p>【取組内容の状況成果の分析】</p> <p>①脳神経外科医の安定的な確保に努めた結果、脳血管系造影件数は前年度と比較して19件増加し、脳神経外科外来延患者数は217名増加、入院延患者数は430名減少しました。</p> <p>②③引き続き実施しています。</p>
-	-	-213人	11,309人	<p>【今後の方向性】</p> <p>脳神経外科による脳卒中急性期医療の整備を推進します。</p>
-	-	3.3%	71.9%	<p>【取組内容の状況成果の分析】</p> <p>①登録紹介医制度の推進により初診紹介患者数が増加し、救急専門医、小児科医の安定的な確保に努め、川崎市二次救急輪番制にも引き続き参加したことにより救急患者数が増加した結果、紹介率・逆紹介率とも前年度平均を上回りました。</p> <p>②画像検査（MR・CT）の件数が前年度比を上回り、回復傾向にあります。紹介元の希望日の依頼に答えられるよう、MRの枠数を増やすなどの対応をしています。</p>
-	-	599件	3,122件	<p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き①②の取り組みを推進します。</p>
-	-	-4回	8回	<p>【取組内容の状況成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域関係施設との連絡調整会議への参加回数については、新型コロナウイルス感染症の感染対策として、オンラインで4回開催しました。</li> <li>・コロナへの感染対策を万全として地域医療支援病院運営委員会を4回開催。医師会はもとより、薬剤師会や消防署、近隣住民の代表者らと毎回活発な意見交換が行われています。</li> </ul>
-	-	4回	0回	<p>①オンラインで定例会を5/19(水) 10/20(水) 2/16(水)の3回開催し、学習会を12/13(月)に1回開催しました。</p> <p>②9/1(水)に多摩市民館大ホールで「登録紹介医の会」をシンポジウム形式で開催しました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き①②の取り組みを推進します。</p>



取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 人材の確保と育成の推進</b>				
①医療従事者の確保	①病院実習生の受入れ ②病院見学・インターンシップの受入れ	中期計画	基幹型臨床研修医の受入れ	10名
		中期計画	医師事務作業補助者の人数	17名
②職員の専門能力の向上	①認定看護師取得のためのサポート ②診療情報管理士の安定的な確保	中期計画	認定看護師の人数	11名
		中期計画	診療情報管理士の人数	16名
<b>取組項目(2) 医療安全の確保・向上</b>				
○医療安全の強化	①医療事故の防止及び迅速な対応 ②医療安全対策に係る研修を受けた専門看護師等の配置 ③感染対策の十分な経験を有する医師・看護師等の配置 ④感染制御チームによる活動の推進	中期計画	体制の確保 (「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出)	届出(継続)
<b>取組項目(3) 患者に優しい病院づくり</b>				
○分かりやすい情報提供と利用しやすい施設の強化	①医療相談センターにおける患者相談窓口の一元化 ②ホームページの内容の充実 ③市民健康講座の開催	中期計画 総合計画	入院患者満足度	86.2%
		中期計画 総合計画	外来患者満足度	84.3%

**<外部評価> 委員会委員による意見等**

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。

なお、協議にあたり各委員から出された意見等は次のとおり。

**【取組項目(1) 人材の確保と育成の推進】**

- ・職員満足度調査について、調査結果を受けたフィードバックや対策に更に取り組んでほしい。
- ・看護師の処遇改善は公立病院に限らず必要である。

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	変わらず	10名	【取組内容の状況成果の分析】 ・臨床研修医は前年度10名（前期のみ記載）から20名（前期＋後期）と受入数は変わらず、医師事務作業補助者は前年度同様となりました。 ①病院実習生は32校から253名を受け入れました。 ②病院見学は15回、インターンシップは41回受け入れました。
-	-	変わらず	17名	【今後の方向性】 引き続き①②の取り組みを推進します。
-	-	変わらず	11名	【取組内容の状況成果の分析】 ・認定看護師は前年度と同様。また、専門看護師（家族支援分野）1名も勤務しています。 ①引き続き実施しています。 ②診療情報管理士は前年度と比較して1名増員しました。
-	-	1名	15名	【今後の方向性】 引き続き①②の取り組みを推進します。
-	-	-	届出(継続)	【取組内容の状況成果の分析】 ①医療事故の防止、及び迅速な対応については、医療安全に係る指針、規程に基づいて迅速な活動をしています。 ②医療安全対策に係る研修を受けた専門看護師等の配置は、医療安全管理室副室長として専従配置しています。 ③感染対策については、医療安全管理室所属の院内感染対策において十分な経験を有する医師・看護師等が活動しており、看護師については専従配置をしています。 ④院内感染対策委員会（1回/月）について、室長・病院長・副院長・医師・看護師(専従)・臨床検査技師・薬剤師・事務で構成しており、感染対策チーム（ICT）のラウンドも毎週実施しています。  【今後の方向性】 引き続き①～④の取り組みを推進します。
89.3%以上	96.5%	-3.8%	90.0%	【成果指標及び取組内容の状況と分析】 ・患者満足度調査は、1回目を8月に、2回目を2月に実施しました。 ①引き続き実施しています。 ②10/26(金)にホームページをリニューアルしました。 ③5/24(月)に眼科、8/3(火)に産婦人科、12/21(火)に薬剤部、3/28(月)に呼吸器内科の市民公開講座を、それぞれ動画で配信しました。
81.7%以上	103.2%	-1.3%	85.6%	【今後の方向性】 引き続き①～③の取り組みを推進します。

取組課題3 強い経営体質への転換

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値
<b>取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進</b>				
-	①医療機能の充実・強化による診療収益の確保 ②精度の高い診療報酬請求 ③未収金督促・催告の強化	中期計画	医業収益の額	89.0億円
		中期計画	入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	69,373円
		中期計画	外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	15,016円
		中期計画 ※	病床利用率(許可)	62.3%
			病床利用率(稼働)参考	75.8%
<b>取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進</b>				
-	①適正な在庫管理 ②業務効率化による時間外勤務の縮減	中期計画	職員給与費対 医業収益比率	59.7%
		中期計画	委託費対 医業収益比率	15.9%
<b>取組項目(3) 経営管理体制の強化</b>				
-	①幹部会議を通じた収支状況等の各職員への周知 ②経営戦略会議の開催	中期計画	経営戦略会議開催数	12回
		総合計画	多摩病院運営協議会等 の開催回数	6回

＜外部評価＞ 委員会委員による意見等

●目標値達成に向けた取組状況及び進捗状況について説明を受け、委員会として協議した結果、各取組項目に対する達成度の判定を概ね適当と認めた。

第2期実施計画 R3年度目標値	目標値 達成率	前年度 増減値	R2年度 実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
-	-	6.4億円	82.6億円	<p>【成果指標及び取組内容の状況と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機能の充実・強化の一環として、登録紹介医向けに各診療科医師による動画配信等を行っています。</li> <li>①最新の手術支援ロボットを導入し、病院機能の充実・強化を行いました。</li> <li>②各担当事務が査定項目を分析し、実際に審査を行っている医師が委員長であるレセプト審査委員会で、事例検討を行い、精度の向上に努めています。</li> <li>③電話や文書による督促とともに未収台帳を作成し、医事課内で情報共有及び各部署と連携して行っています。回収困難事例に対しては、法人内の会議で相談する体制を整えています。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポストコロナに対応できる医療提供体制へ速やかに移行できるよう準備を進めていきます。</li> <li>・引き続き①～③の取り組みを推進します。</li> </ul> <p>※病床利用率は一般病床を基準としたもの</p>
-	-	4,757円	64,616円	
-	-	25円	14,991円	
-	-	-2.6%	64.9%	
-	-	-3.3%	63.0%	<p>【取組内容の状況成果の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①物流センターによる全部署の在庫見直しを毎年2回実施するほか、必要に応じて随時対応しています。</li> <li>②「医療従事者業務負担軽減検討委員会」において、医療従事者の勤務状況を把握し、労働環境の改善策を講じています。また、時間外勤務も同委員会にて、半月及び1ヶ月毎に勤務内容を評価し、各所属長へ注意喚起するなど改善策を講じています。</li> <li>・4病院作業部会を開催し、材料等商品を4病院統一を図ることでスケールメリットを得ています。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き①の取り組みを推進します。</li> <li>・負担軽減検討のためのワーキンググループを開催します。</li> </ul>
-	-	-1.5%	17.4%	
-	-	変わらず	12回	<p>【成果指標及び取組内容の状況と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略会議を毎月開催しました。</li> <li>・多摩病院運営協議会等の開催回数について、市立病院運営委員会における審議を2回実施しました。</li> <li>①月次の収支状況等については、管理運営会議にて各部門責任者へ報告、情報を共有し、各職員へ周知している。</li> <li>②毎月開催の「経営企画会議」にて、収支状況等の報告、経営戦略の企画立案、実施、評価、改善を行っています。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き①②の取り組みを推進します。</p>
2回	300.0%	2回	4回	



# 【 付 属 資 料 】

## 川崎市立病院運営委員会設置要綱

### (目的及び設置)

第1条 川崎市立病院の経営改善及び患者サービス向上の推進並びに指定管理業務の適正な運営を確保することを目的として、川崎市立病院運営委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 川崎市立病院の事業計画の実施状況に係る評価等に関すること。
- (2) 川崎市立病院の事業計画の見直し等に関すること。
- (3) 指定管理者の行う管理運営業務の評価等に関すること。
- (4) その他前条の目的を達成するため、必要と認める事項に関すること。

### (組織)

第3条 委員会は、委員6人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうち、本市職員以外の者から病院事業管理者が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 財務の専門家
- (3) 医療関係者
- (4) その他

3 病院事業管理者は、次の各号の一に該当する場合は、委員を解嘱することができる。

- (1) 委員が自己の都合により解嘱を申し出たとき。
- (2) 委員として相応しくない行為が認められたとき。
- (3) その他病院事業管理者が特に認めたとき。



(任期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長1人及び副委員長1人を置く。

2 委員長は委員の互選とし、副委員長は委員長が指名する。

3 委員長は、委員会を代表し、議長として会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開催することができない。ただし、第4項の規程による除斥のため3分の2以上に達しないときは、この限りでない。

3 委員会は、必要があると認めるときは、委員会の会議に関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

4 指定管理者の行った管理運営業務の評価に際し、当該指定管理者の役員等に就任している委員は、当該評価案件に係る議事から除くものとする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、病院局経営企画室において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成22年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年3月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年7月1日から施行する。

## 川崎市立病院運営委員会委員一覧

氏 名	現 職	区 分
あらい たちし 新井 理之	公益社団法人 川崎市医師会副会長	医療関係者
うつみ とおる 内海 通	公益社団法人 川崎市病院協会会長	医療関係者
◎ おおみち ひさし ◎ 大道 久	日本大学医学部 名誉教授 独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院 名誉院長	学識経験者
○ のなか しげる ○ 野中 茂	公認会計士 野中公認会計士事務所 所長	財務の専門家
ほった あきえ 堀田 彰恵	公益社団法人 川崎市看護協会会長	医療関係者
わたなべ こうしろう 渡邊 古志郎	横浜市立市民病院 名誉院長 全国公私病院連盟 特別参与 全国公立病院連盟 顧問	学識経験者

◎:委員長 ○:副委員長

(令和4年8月22日現在 五十音順 敬称略)

総合計画第2期実施計画に基づく  
令和3年度の取組状況に対する  
点検・評価書

発行 令和5年(2023)年2月  
編集者 川崎市病院局経営企画室  
住所 〒210-8577  
川崎市川崎区宮本町1番地  
電話 044-200-3854  
FAX 044-200-3838





Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市